

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 8 月 15 日 (2013.8.15)

【公表番号】特表 2013-508394 (P2013-508394A)

【公表日】平成 25 年 3 月 7 日 (2013.3.7)

【年通号数】公開・登録公報 2013-012

【出願番号】特願 2012-535356 (P2012-535356)

【国際特許分類】

C 0 7 C 51/275 (2006.01)

C 0 7 C 59/135 (2006.01)

C 0 7 C 51/29 (2006.01)

C 0 7 C 53/21 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 51/275

C 0 7 C 59/135

C 0 7 C 51/29

C 0 7 C 53/21

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 6 月 25 日 (2013.6.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

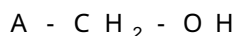
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

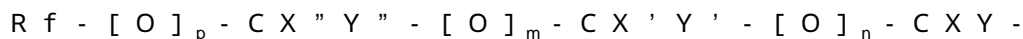
フッ素化カルボン酸及びその塩を調製するための方法であって、一般式 (A) のフッ素化アルコール：



を、少なくとも 1 種類の第 1 の酸化剤及び少なくとも 1 種類の第 2 の酸化剤に曝露することにより、一般式 (B) の高度にフッ素化されたカルボン酸：



[式中、M⁺はカチオンを表し、式 (A) 及び (B) 中の A は同じであり、A は残基：



を表す (式中、Rf は、1 個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいフッ素化アルキル残基を表し、p、m 及び n は、互いに独立して 1 又は 0 であり、X、X'、X''、Y、Y' 及び Y'' は、互いに独立して H、F、CF₃ 又は C₂F₅ であり、ただし、X、X'、X''、Y、Y' 及び Y'' のすべてが H ではない) か、あるいは

A は残基：

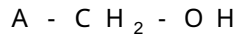


を表す (式中、X 及び R は、水素、ハロゲン、又は、1 個以上のフッ素原子を含んでも含まずともよく、かつ 1 個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいアルキル、アルケニル、シクロアルキル若しくはアリール残基であり；前記少なくとも 1 種類の第 1 の酸化剤は、前記第 2 の酸化剤の作用によって、前記フッ素化アルコールを酸化することが可能な反応種に変換されうる化合物である)]、又はその塩を生成する工程を含む、方法。

【請求項 2】

フッ素化カルボン酸及びその塩を調製するための方法であって、一般式 (A) のフッ素

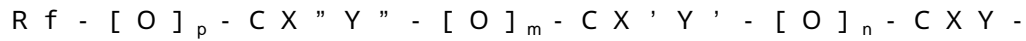
化アルコール：



を、電気化学セル内で電流に曝露することにより、一般式（B）の高度にフッ素化されたカルボン酸：



[式中、 M^+ はカチオンを表し、式（A）及び（B）中のAは同じであり、残基：



を表す（式中、 R^f は、1個以上のカテナリー酸素原子を含んでも含まずともよいフッ素化アルキル残基を表し、 p 、 m 及び n は、互いに独立して1又は0であり、 X 、 X' 、 X'' 、 Y 、 Y' 及び Y'' は、互いに独立してH、F、 CF_3 又は C_2F_6 であり、ただし、 X 、 X' 、 X'' 、 Y 、 Y' 及び Y'' のすべてがHではない）、又はその塩を生成する工程を含む、方法。